

## 青少年期(思春期)

基本目標:心身とも健やかに成長できる

### 【青少年期(思春期)の特徴】

思春期は、小児期から成熟期へ移行する時期で、人格形成にとって大切な時期であると同時に、身体的に成熟し、母性・父性を育む時期でもあります。

身体的変化、とりわけ「性」に対する適応が大きな課題となります。異性への関心や性衝動が高まる現象に、男性、女性としての「性」を受容し、自己を確立していくための精神的動揺が重なり、不安定になります。

また、学校生活、地域生活など生活範囲も広がり、「人」としての社会的役割も変化し、乳幼児期の依存状態から自立するまでの移行期でもあります。

また、生活習慣が確立する時期であると同時に、生活が不規則になる時期でもあり、喫煙・飲酒などへの関心が高まったり、肥満や生活習慣病の兆候などが現れたりします。

### 【青少年期(思春期)の現状と課題】

思春期を心身ともに健やかに成長できるようにするには、思春期の特徴を生理的・心理的・社会的側面から相対的にとらえ、自ら健康の保持増進を図ることができるような能力を育成することが必要です。

本市における20歳未満の人工妊娠中絶の状況をみると国、県に比べて高く、増加傾向にあります。また、10代の性器クラミジア感染症で治療する割合は14.6%を占めています。望まない妊娠や性感染症を予防するため、子どもたちが仲間同士で性に関する正しい知識を学習し合えるよう、「ピアカウンセリング」の手法をもちいるなどして、正しい知識の普及啓発に取り組む必要があります。また、親が思春期の特徴を理解し、家庭での教育がきちんと行えるよう、保護者に対しても、学習する機会を設ける必要があります。

また、朝食の欠食状況を見ると、小学生5.6%・中学生14.7%・高校生16.1%と年齢があがるにつれて毎日食べる人の割合が減少しており、体格では、小学生の肥満児の割合が県に比べ高い状況にあります。

さらに、近年、思春期の子ども達のいじめや不登校、引きこもりなど心の問題の顕在化に加え、喫煙・飲酒・傷害事件など社会的問題も多発しています。これらは、本人の現在の問題に留まらず、生涯にわたる健康障害や時には次世代への悪影響をも及ぼしかねない問題です。子どもたちの生活習慣病の予防、禁煙や禁酒、心の健康づくりのため、家庭、学校、地域のネットワークにより、地域ぐるみで子どもの健康を守るための教育や環境づくりを行っていくことが大切です。

こうした様々な課題のなかで、生命を尊び、自分らしく生きることができるようになるため、望まない妊娠や性感染症を防ぐことを、重点課題として優先的に取り組みます。

1. 性に関すること

現状・課題

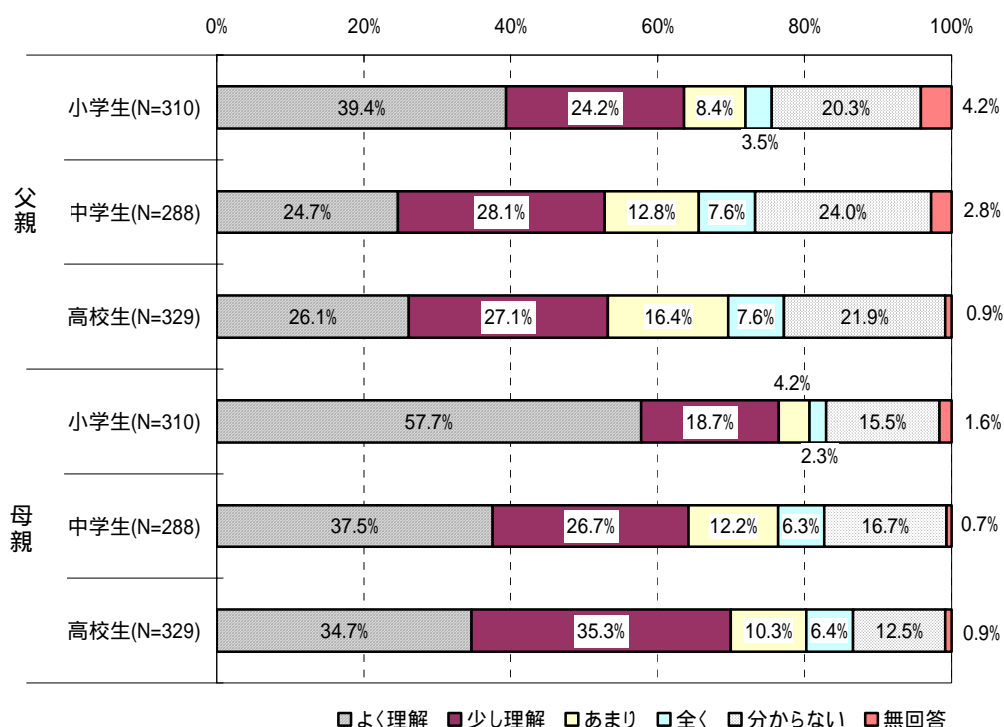
この分野では、(ア)自己受容、(イ)望まない妊娠や性感染症の予防の2つに分けて現状と課題を抽出します。

(ア)自己受容

【現状】

- ・親が自分のことを「よく理解している・少しは理解している」と思う人の割合

父親と母親を比較すると、母親の方が「よく理解している・少しは理解している」と思う人の割合が、小・中・高校生ともに高いです。



市民アンケート調査(小・中・高校生)

- ・自分のことが好きと感じる人の割合

自分のことが好きと感じる人の割合は小学生が最も高く、嫌いと感じる人の割合は高校生が最も高いです。

	好き	嫌い	分からない	無回答
小学生	33.9%	7.7%	56.1%	2.3%
中学生	22.6%	17.4%	59.4%	0.7%
高校生	22.5%	22.2%	54.4%	0.9%
全体	26.3%	15.9%	56.5%	1.3%

市民アンケート調査(小・中・高校生)

・親の理解度と自己受容に関する割合

親が理解していないと感じていると「自分のことを嫌い」と思う人の割合が高いです。

親の理解度		自己受容			
		好き	嫌い	分からない	無回答
父親	よく理解している	40.9%	9.7%	47.7%	1.8%
	少し理解している	24.9%	15.5%	59.2%	0.4%
	あまり理解していない	24.8%	17.1%	57.3%	0.9%
	全く理解していない	20.7%	44.8%	34.5%	0.0%
	分からない	12.7%	16.2%	70.6%	0.5%
母親	よく理解している	40.1%	10.0%	48.9%	1.0%
	少し理解している	18.3%	16.7%	64.1%	0.8%
	あまり理解していない	20.7%	28.0%	50.0%	1.2%
	全く理解していない	15.2%	47.8%	37.0%	0.0%
	分からない	9.5%	14.6%	75.9%	0.0%

市民アンケート調査(小・中・高校生)

・体の悩みがいつもある人の割合

小学生 9.4% 中学生 9.0% 高校生 17.9%

高校生は小中学生に比べ、体のことでいつも困ったり、悩んだりする割合が高くなります。

市民アンケート調査(小・中・高校生)

【解説】

自分を大切にできる感情は、保護者や親しい大人との関わり方や評価のしかたの中で変容、形成を繰り返し発達する。思春期の時期に自己を肯定的に受け止められないと、安定した男性像、女性像が形成されず、性衝動、性行動にゆがみが生じることがある。

【課題】

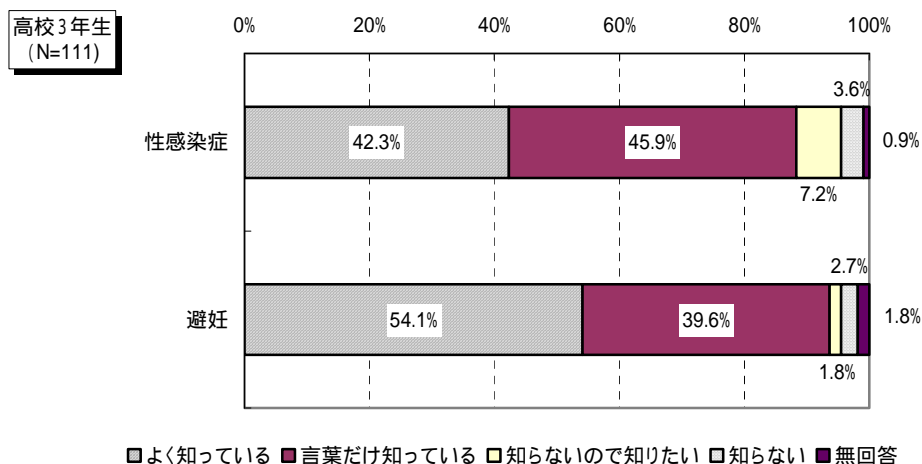
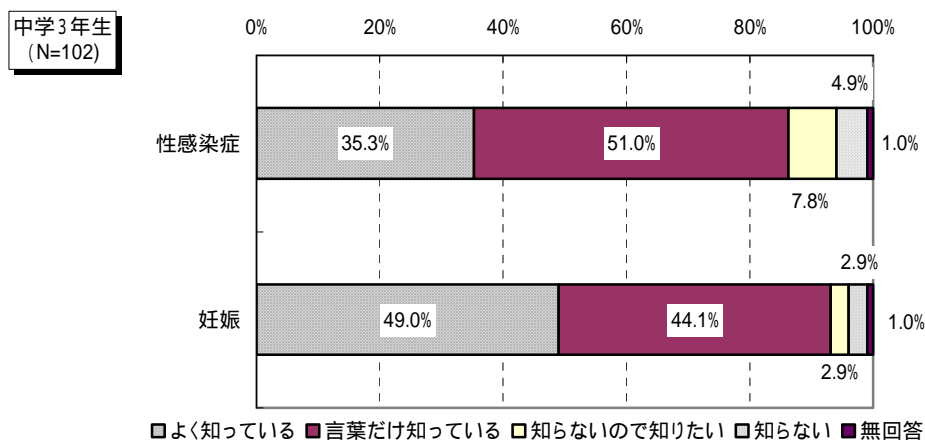
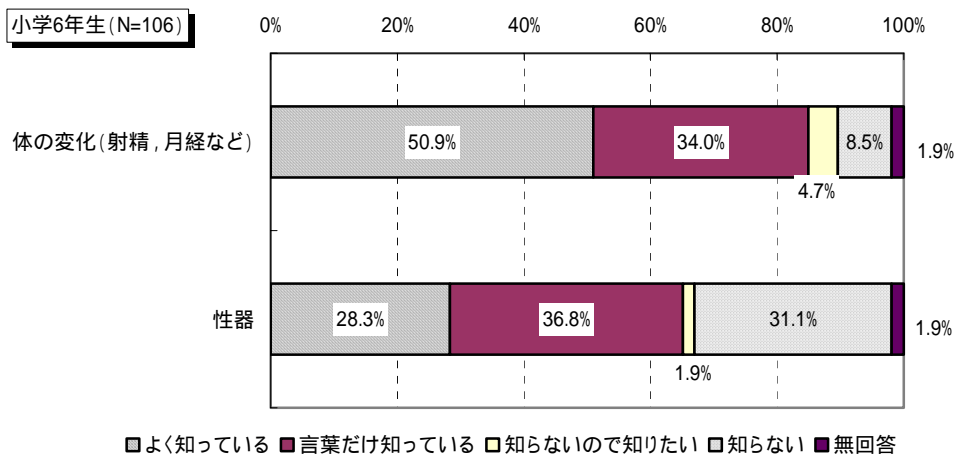
親子の相互理解を深め、自己を肯定的に受け止められるようにすることが必要です

(イ)望まない妊娠や性感染症の予防

【現状】

・性に関して、よく知っている人の割合

性に関してよく知っている人の割合は多くて5割程度です。



市民アンケート調査(小・中・高校生)

・性に関することを教える必要はないと思う親の割合

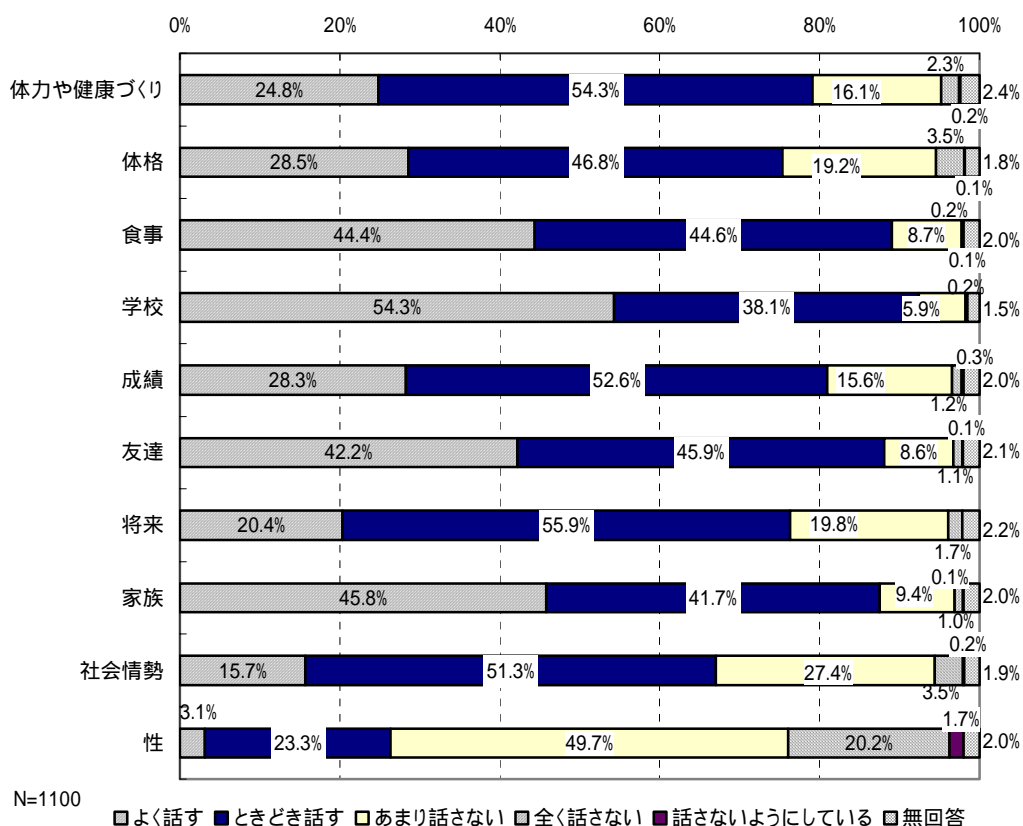
小学生の親に比べ、中学・高校生の親の方が、教える必要はないと思う割合が高いです。

	小学生の親	中学・高校生の親
男女の体の違い	4.2%	15.9%
月経	6.4%	14.0%
精通現象・射精	12.0%	19.9%
男女交際	8.3%	10.8%
妊娠出産	8.8%	11.6%
中絶	16.0%	14.0%
性感染症	10.3%	9.8%
避妊	11.8%	12.0%

市民アンケート調査(小・中・高校生の親)

・家庭で性について「よく話す・ときどき話す」親の割合 26.4%

親子の会話は、「学校」「家族」「食事」「友達」のことを話題にすることが多く、「性」についてよく話す人が3.1%で、家庭で性に関する話題にすることは少ないです。



市民アンケート調査(小・中・高校生の親)

・ 性に関することは誰に教えて欲しいか(複数回答)

小学生は親，中高校生は友達・先輩に教えて欲しいという希望が多いです。

	小学生	中学生	高校生
親	55.2%	11.1%	5.2%
友達・先輩	16.1%	42.0%	53.2%
兄弟・姉妹	7.1%	1.4%	3.0%
学校の先生	17.7%	10.8%	9.7%
医師などの専門職	25.8%	22.2%	29.2%
誰にも教えてほしくない	2.9%	31.6%	17.6%

市民アンケート調査(小・中・高校生)

【解説】

性は生・生きる心，つまり性教育は，生き方の教育であると捉え，男女がよい関係を取りあって，豊かな人生を築くための人間教育として行うことが大切である。

・ 性感染症発生状況(年間受理数に占める割合)

性器クラミジア感染症，淋菌感染症などの20代の占める割合が高いです。

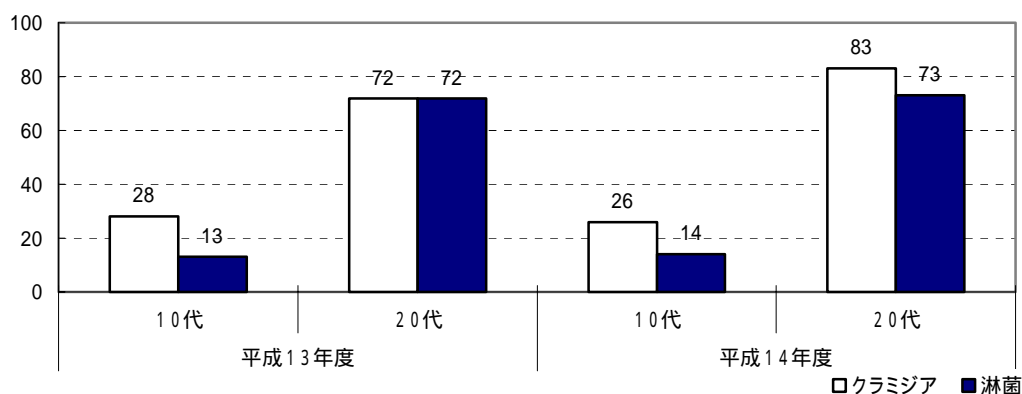
	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
性器クラミジア感染症	14.6%	46.6%	23.8%	10.1%	4.7%	0.2%
淋菌感染症	9.0%	45.4%	27.5%	12.9%	4.8%	0.4%

平成14年度定点観測(1)による宇都宮市保健所受理数

1 定点観測 市内の3医療機関からの報告

・ 1医療機関あたりの年間届出数(3定点の平均数)

10代の年間届出数は，平成13・14年度については横ばいです。



定点観測による宇都宮市保健所受理数

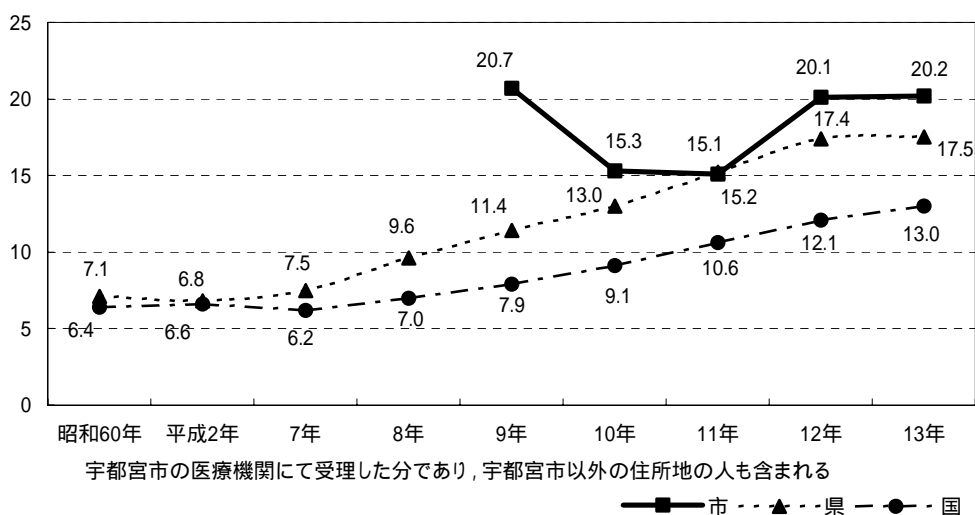
【解説】

無防備な性行動は，性感染症を引き起こす危険があることを認識し，性感染症に感染することが，体や心の傷となることを周知する必要がある。

・人工妊娠中絶実施率(20歳未満) 20.2

国・県に比べると高く、増加傾向です。

人工妊娠中絶実施率 15歳以上20歳未満の女子総人口千対



宇都宮市の医療機関にて受理した分であり、宇都宮市以外の住所地の人も含まれる

宇都宮市統計

・異性から性交渉を求められたとき「性交する」と思う中学、高校生の割合 22.7%

異性から性交渉を求められた時の行動として、「性交する」と思う人は全体で22.7%であり、その中でも「避妊しないで性交する」と思う人は2.6%です。

市民アンケート調査(中・高校生)

・日頃の悩みの有無と性交渉の割合

悩みあり 性交する 30.5% 悩みなし 性交する 19.4%

いつも悩んでいる人の方が、悩みがない人に比べ、性交すると思う割合が高いです。

市民アンケート調査(中・高校生)

【解説】

性交渉を持つことは妊娠につながることを認識し、安易な中絶は不妊症や精神的な後遺症などにつながることを周知する必要がある。

【課題】重

10代から、性の正しい知識を身につけ、望まない妊娠や性感染症をさけることが必要です

重：重点課題

健康目標



目標値

【自己受容】

項目		現状	2010年の目標値
父親が自分のことを「よく理解している・少しは理解している」と思う人の割合	小学生	63.6%	増やす
	中学生	52.8%	
	高校生	53.2%	
母親が自分のことを「よく理解している・少しは理解している」と思う人の割合	小学生	76.4%	
	中学生	64.2%	
	高校生	70.0%	



重【望まない妊娠や性感染症の予防】

重：重点目標値

項目		現状	2010年の目標値	
性に関して、よく知っている人の割合	小学6年生	体の変化	50.9%	
		性器	28.3%	
	中学3年生	性感染症	35.3%	
		妊娠	49.0%	
	高校3年生	性感染症	42.3%	
		避妊	54.1%	
家庭で性について「よく話す・ときどき話す」親の割合			26.4%	増やす
10代における1医療機関からの年間届出数	性器クラミジア感染症		26件	減らす
	淋菌感染症		14件	減らす
人工妊娠中絶実施率 15歳以上20歳未満の女子総人口千対 宇都宮市の医療機関にて受理した分であり、宇都宮市以外の住所地の人も含まれる		20.2	13.0以下	

健康目標を実現するための取り組み

【自己受容】

個人・家庭の取り組み

【個人】

年齢とともに変化する心や体の発達を理解し，自分の成長を受容します  
体のこと（発達のこと），精神的なことなどで悩みがあったら相談します

【家庭】

子どもの年齢とともに変化する心や体の発達を理解し，愛情を持って子どもと接します  
親子のスキンシップを大切にします  
子どもの悩みやふだんと異なるサインを早めにキャッチします

地域・学校・保育園・幼稚園・医療機関・職場の取り組み

【学校】

子どもたちが自分の成長を学ぶ機会を設けます

行政の取り組み

【行政】

家庭の日の推進など，家族の絆を深める機会を設けます  
思春期の子どもと親を対象にした教育，相談を充実します

重【望まない妊娠や性感染症の予防】

重：重点取り組み

個人・家庭の取り組み

【個人】

性情報の氾濫する中，正しい情報を選択できるようにします  
中絶，避妊の方法，性感染症など性に関する正しい知識を身に付けます  
悩みや不安がある場合は一人で悩まず，早めに相談します  
生命の尊さを理解し，相手を尊重し責任のある行動をします

【家庭】

子どもの性に関する質問に誠実に答え，性に関する話を家庭で話しあう機会を増やします

地域・学校・保育園・幼稚園・医療機関・職場の取り組み

【学校】

年齢に応じた性に関する教育を行います  
学校で行う性教育を，親にも理解してもらいます

【学校・医療機関】

学校・医療機関・行政の連携を強化し，親と子に性に関する正しい知識を普及啓発します

行政の取り組み

【行政】

性感染症の検査・相談事業を充実します  
ピア・カウンセリングの手法を用いて，性に関する正しい知識の普及啓発を行います  
親が，子どもの成長を理解し，家庭で性教育が行えるよう，学ぶ機会を設けます  
学校・医療機関・行政の連携を強化し，親と子に性に関する正しい知識を普及啓発します

行政が取り組む事業

【自己受容】

現在実施している事業名	対象者	実施内容
思春期講演会	思春期の子を持つ親等	思春期の身体的心理的特徴などの知識を習得し、理解を深めるための講座を実施する。
性と健康に関する健康教育 (ピアカウンセリング)	市内の高等学校に通う高校生	ピアカウンセラーにより、ピアカウンセリングの手法を用いて、性と健康に関する正しい知識や情報を提供する健康教育を実施する。
思春期相談	小中高生などとその親	月経異常や妊娠など体や性に関する悩み・相談に対し、来所又は電話で保健師が応じる。
家庭教育学級	小学生の親	家庭における子供の教育を行うために必要な、考え方や育て方についての知識や技術を身につける講座を実施する。
親子教室	小学生とその養育者	体験学習やレクリエーションを通して創造性を高めるとともに、親子の絆やふれあいを深め、家庭教育の向上を図るため講座を開催する。
小中高生対象教室	小中高生	自然体験学習や、ボランティア体験学習などの各種体験学習や活動を通し、健全な育成と社会性の涵養を図るため、学校週5日制対応・国際理解・ボランティア活動体験・環境、地域学習・ふるさと再発見・地域との連帯感の涵養などのテーマで講座を開催する。
「子育てのしおり」の作成・配布	小学生の親	子供が大きく成長する時期のしつけや親の役割、育て方について分かりやすくまとめた小冊子を新入学児童の親に配布する。
家庭の日の推進	一般市民	家庭の和やかな団らんを通して、家族全員の心の交流を図り家族の絆を深めるため、毎月第3日曜日の「家庭の日」を普及推進する。
家庭教育ノートの配布	中学生	小・中学生を持つ親のために、家庭での教育やしつけに関する子育てのヒントをまとめた小冊子(文部科学省で作成)を中学生の保護者に配布する。

<今後の検討事項>

\* 青少年の居場所づくり

## 重【望まない妊娠や性感染症の予防】

重：重点事業

現在実施している事業名	対象者	実施内容
思春期講演会	思春期の子を持つ親等	思春期の身体的心理的特徴などの知識を習得し、理解を深めるための講座を実施する。
性と健康に関する健康教育 (ピアカウンセリング)	市内の高等学校に通う高校生	ピアカウンセラーにより、ピアカウンセリングの手法を用いて、性と健康に関する正しい知識や情報を提供する健康教育を実施する。
思春期相談	小中高校生などとその親	月経異常や妊娠など体や性に関する悩み・相談に対し、来所又は電話で保健師が応じる。
エイズ・性感染症検査、相談	市民一般	HIV・性器クラミジア・梅毒の検査の実施と、不安や悩み等に対し、医師、保健師等が相談に応じる。
エイズ・性感染症に関する健康教育	小中高校生	エイズ・性感染症に関する健康教育を実施する。
性教育サポート事業(中学3年生を対象にした性教育)	中学3年生	市立中学校における、産婦人科医師による健康教育を実施する。